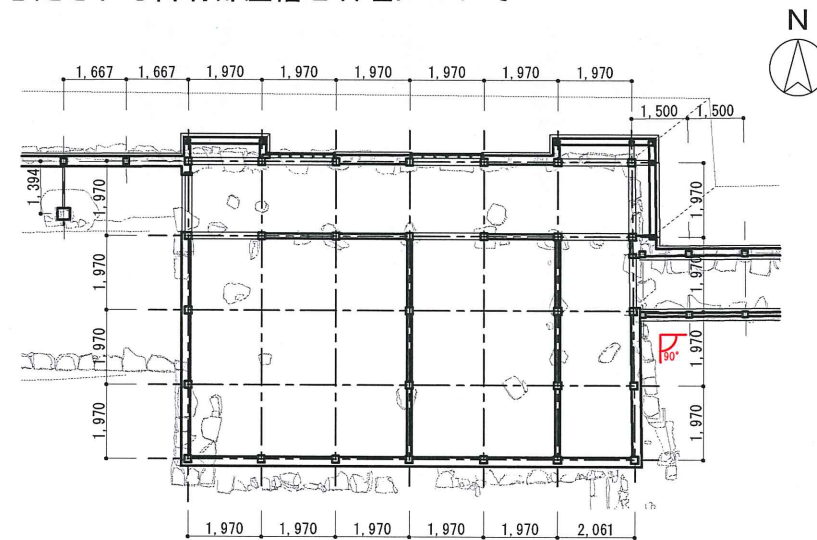


特別史跡 熊本城跡平左衛門丸塀復元整備事業
第3回史跡・建築部会資料

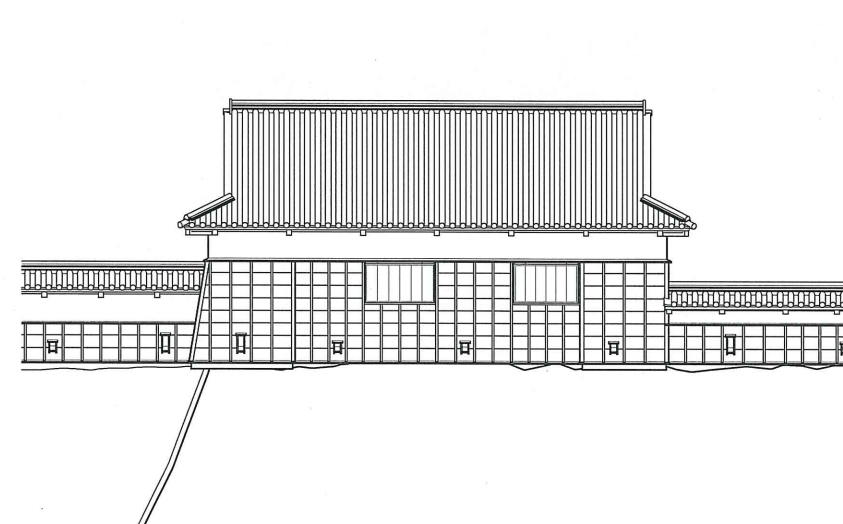
熊本市
平成25年3月

1 想定される御肴部屋櫓と石垣について



想定平面図

現状遺構を計測した平面図上に想定平面図を重ねて作図



想定北立面図

- 御肴部屋櫓想定平面図

- ・総図から御着部屋櫓の平面は、東西に2室並べ、部屋の北・東面に廊下を配した平面計画とした。
 - ・柱間寸法は、現状の石垣・礎石等の残存する遺構から一間6.5尺を基準とした。
 - ・他の櫓の柱間寸法も同様の基準寸法としているものが多い。
 - ・櫓台東通りの石垣は、大きく崩れてしまっているが、残存している部分は他の三方とは矩が合っていない。
- 南面東端の間だけ6.5尺より広くして石垣に合わせた通りとした。
- ・東面の振れている通りに対して、廊下塀の石垣がほぼ直角に取り付くので、廊下塀は御着部屋櫓の東通りに対して直角に計画した。

- ### ●御肴部屋櫓想定立面図

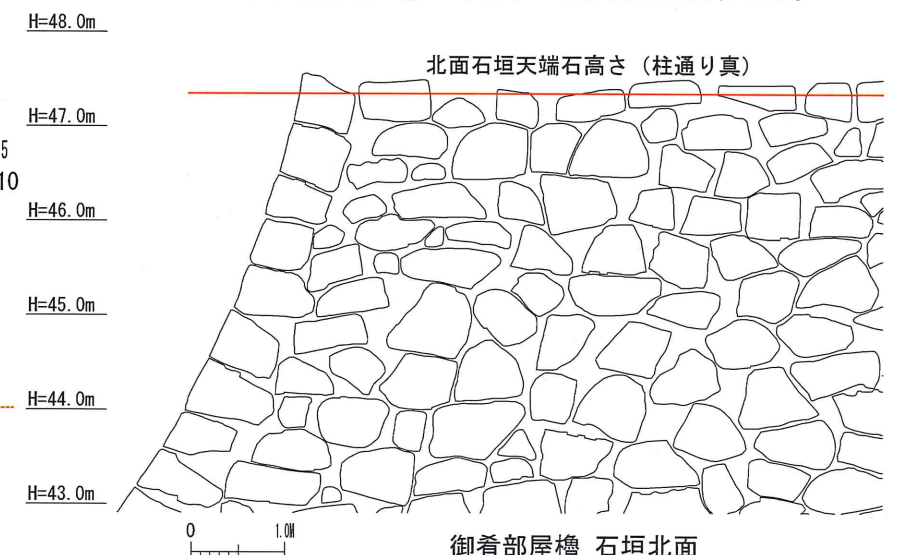
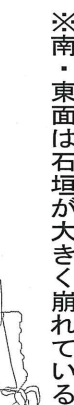
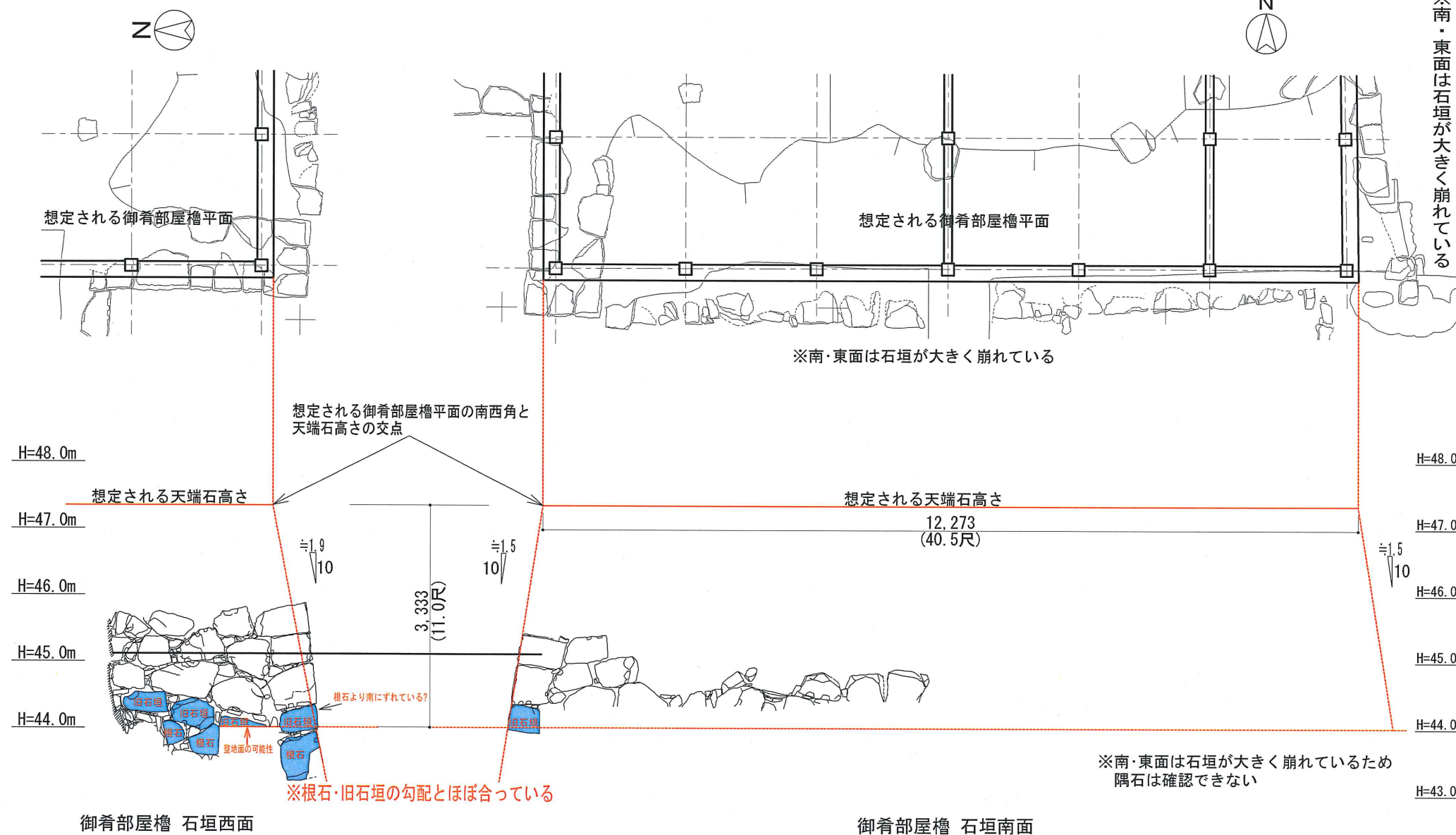
- ・立面は古写真解析により、屋根・腰板等の高さを求め、廊下塀・土塀（籠塀）との高さ・納まりを検討して作図。

- 想定される石垣（櫓台）

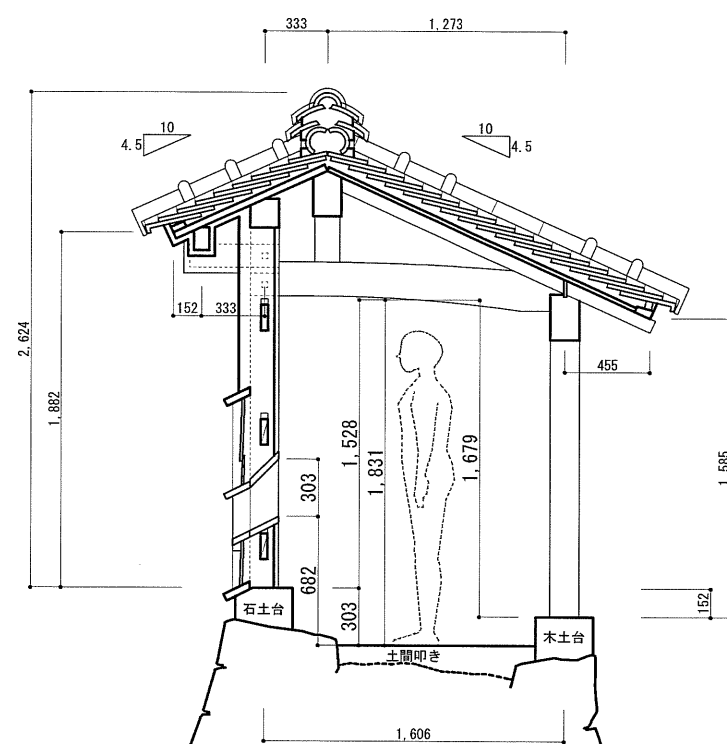
- ・石垣南・西面隅部分の下部には、根石・旧石垣が一部残存している。南・東隅部分には確認されていない。
- ・根石角の勾配を引通すと、南面は1.9寸、西面は1.5寸程度となる。
- ・石垣の南面は大きく崩れてしまっているため高さは不明だが、北面の天端石高さと四周の石垣が積まれていたと考えるのが適当と思われる。
- ・想定される平面図の壁厚を他の櫓と同様の3寸とした場合、根石角の勾配引通線・天端高さの交点と大壁の外角とがほぼ合致する。

- ### ●石垣（櫓台）の復元方針

- ・ 檜台の形状については、残存している根石・旧礎石を基に北面石垣天端高さまで積み直した檜台の形状で復した場合でも大きな誤差は生じないと思われる。南・東隅部分は根石等が確認できていないため、南・西隅の形状に倣うのが適当と思われる。
- ・ 石垣積み直しについては、北面46.0mから上の積み増しされた石垣に倣って行うことが適当と思われる。

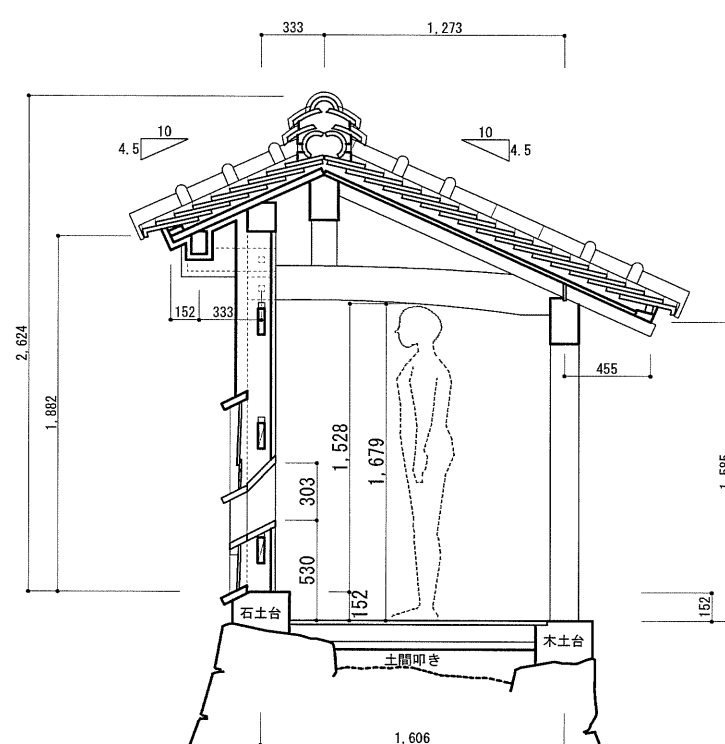


2 廊下塀の床について



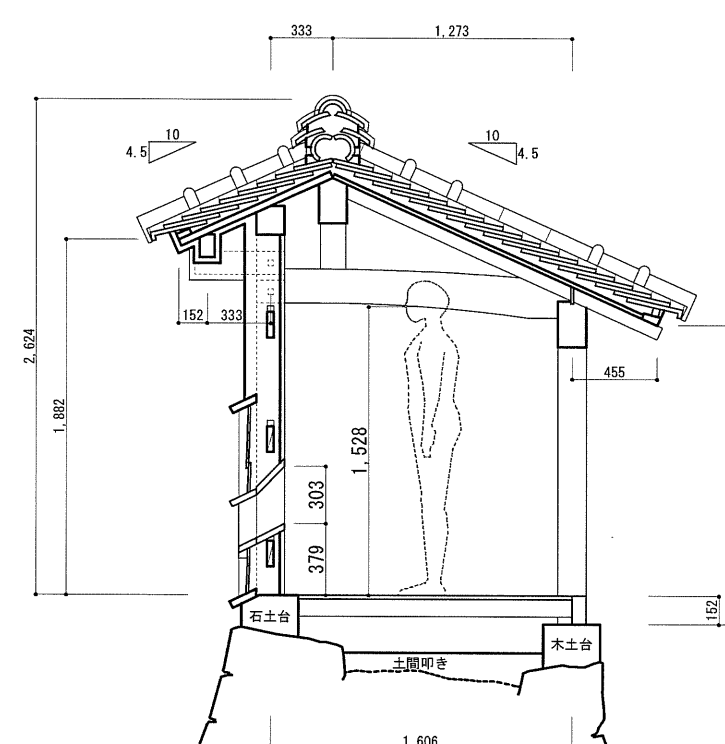
① 床なし（土間叩き仕上げ）

- ・土間叩きから梁下まで6尺ほどあるため、人の通行には支障がない。
- ・土間叩きから銃眼までの高さが682mmあるため、立ったまま銃を構える高さになる。
- ・城外側の天端石の大きさ・高さが不揃いだが叩きのため仕上げは容易である。
- ・天端石が土間叩きより露出するため、石が大きいものは通行の際の支障となるものもあると思われる。



② 床あり（木土台天端と等高）

- ・床板上端から梁下まで約5.5尺ほどで、人の高さと同くらいなので、人の通行はぎりぎり可能と思われる。
- ・床を梁間全面に張るので通行はしやすいと思われる。
- ・床板上端から銃眼までの高さは530mmなので、片膝をつく、または立ったままでも銃を構えられる高さになる。
- ・城外側の天端石の大きさ・高さが不揃いのため、床根太は天端石にヒカリ付けして載せるだけの納まりとなる。
- ・城内側は木土台なので、根太や床板の取付は容易で、納まりは良い。
- ・床高さを木土台よりも低くしすぎるとヒカリ付けした際の根太の木余りが少なくなってしまう。
- ・梁間の中間に礎石がないため、桁行方向に転ばして根太を置いた形式や中間に大引を置く形式は考えにくいので、梁間に成高の根太を架けた床組が適当か。



③ 床あり（石土台天端と等高）

- ・床板上端から梁下まで約5尺ほどしかないため、人の通行には支障がある。
- ・床板を梁間全面に張るので、足下には支障はない。
- ・床板上端から銃眼までの高さは379mmなので、片膝をついて銃を構える高さになる。
- ・城外側は石土台なので、根太の取付のために石に加工するか根太受けを置く必要がある。
- ・城内側は木土台よりも上に床組が掛かるので、床組材が見えないように見切り材を取り付ける必要がある。

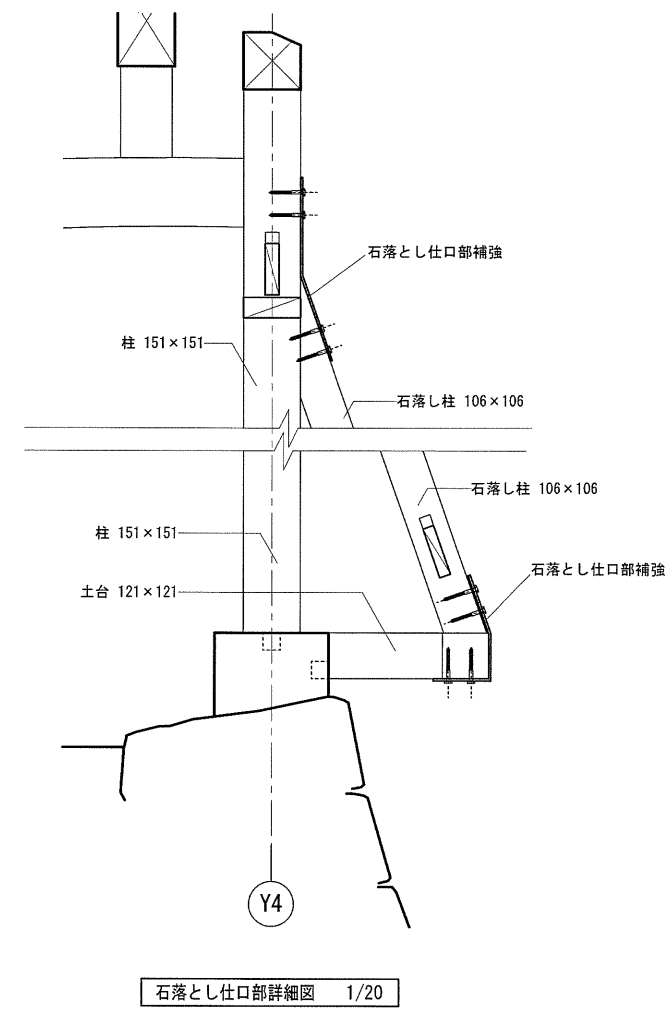
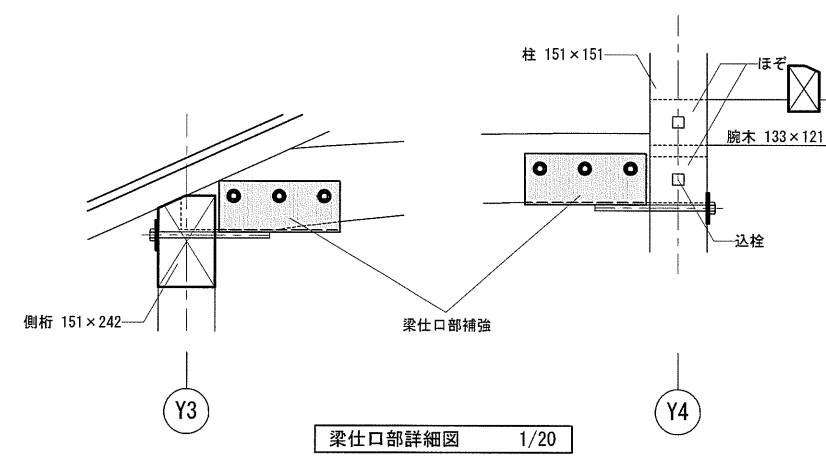
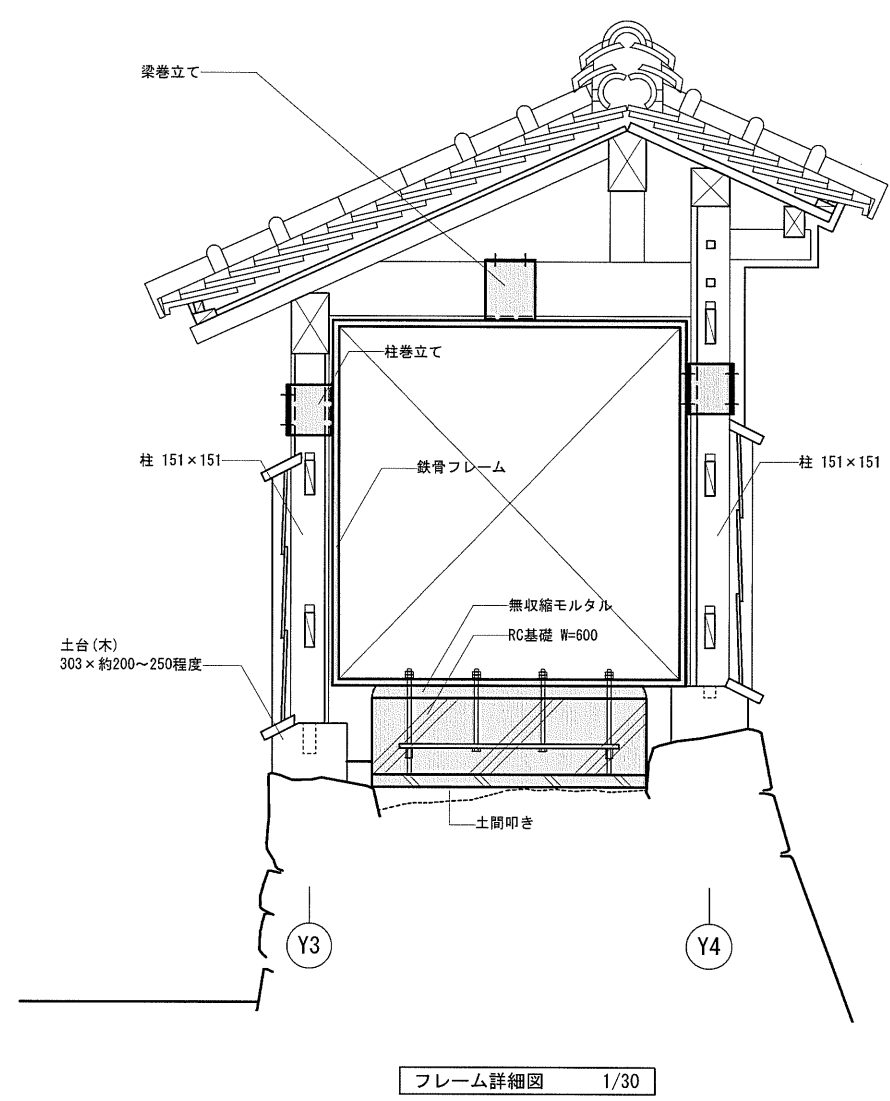
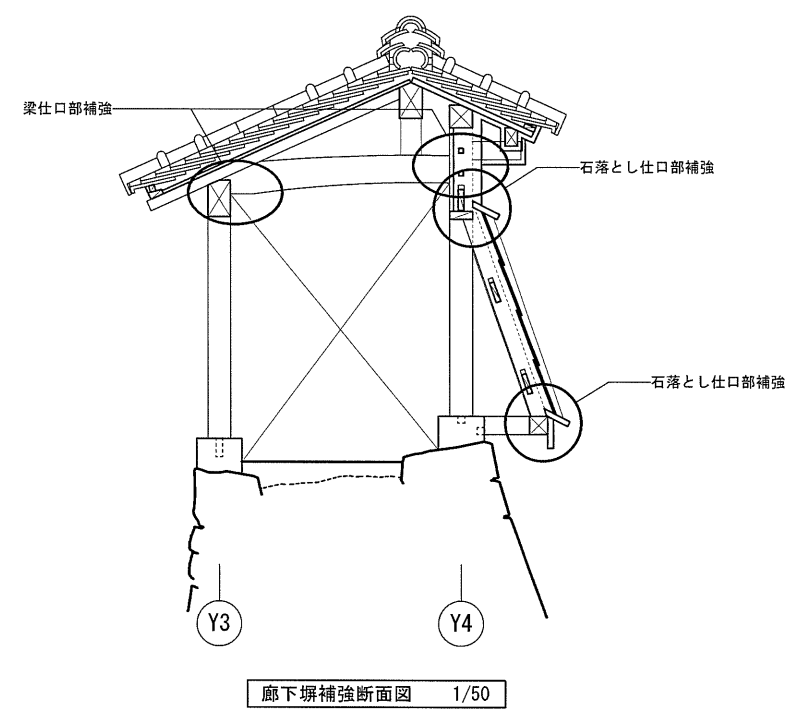
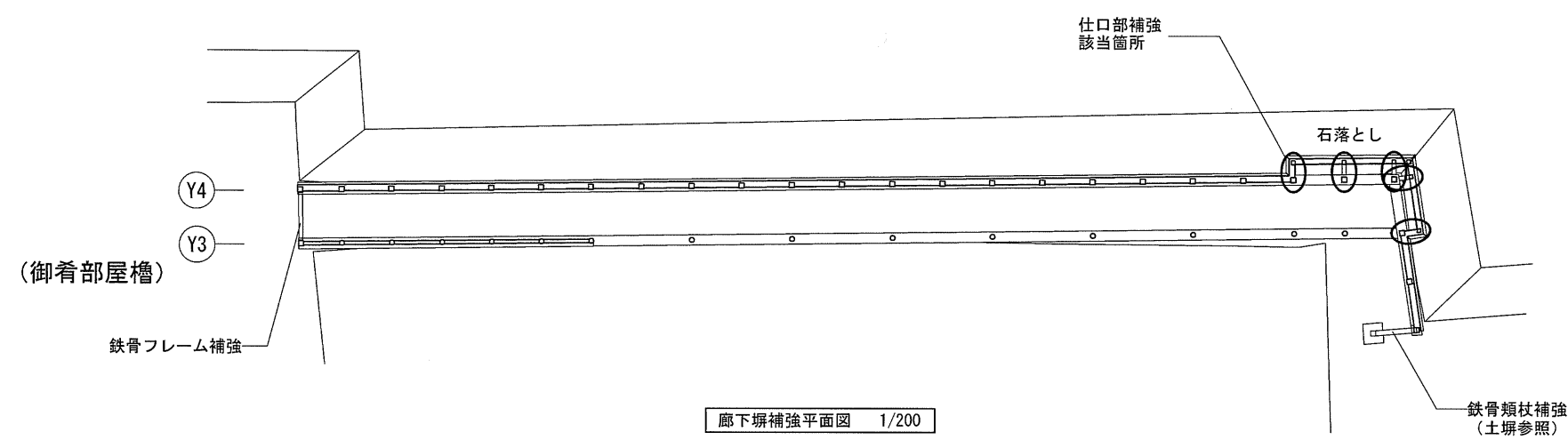
考察

以上のように、①床なし（土間叩き仕上げ）、②床あり（木土台と等高）、③床あり（石土台と等高）の3タイプを作図しそれぞれの納まりを検証したが、③は床板上端から小屋梁までの高さが低いため、通行に支障があると思われることから、廊下塀としての機能から③は考えにくい。

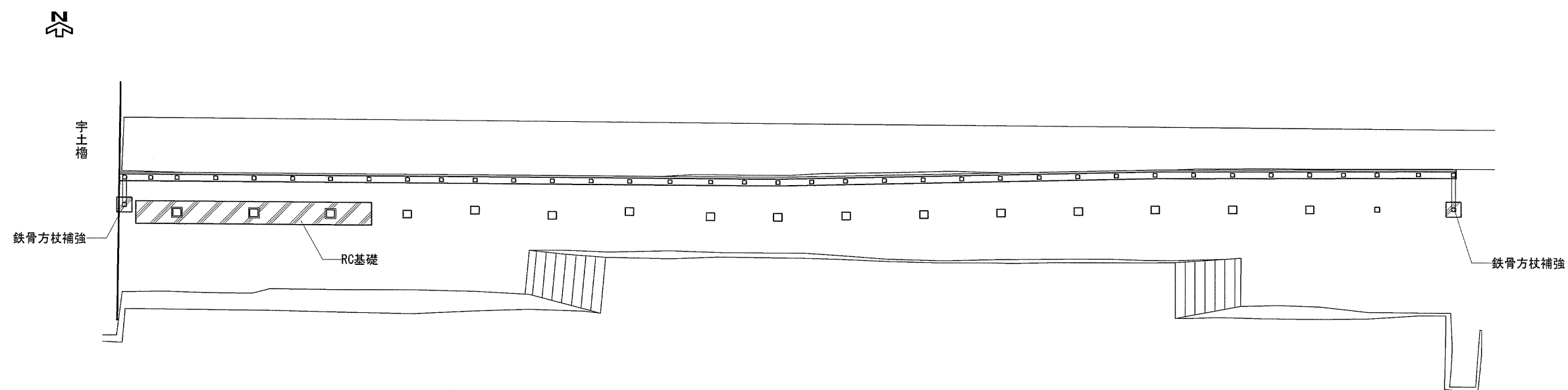
②も床板から小屋梁下までの高さは①に比べると低くなってしまうが、人の通行はぎりぎり可能な高さと思われる。

以上から、廊下塀内部は床なしとして土間叩き仕上げとするか、床板を張る場合は木土台と等高に床板を張る形式が適当と思われる。

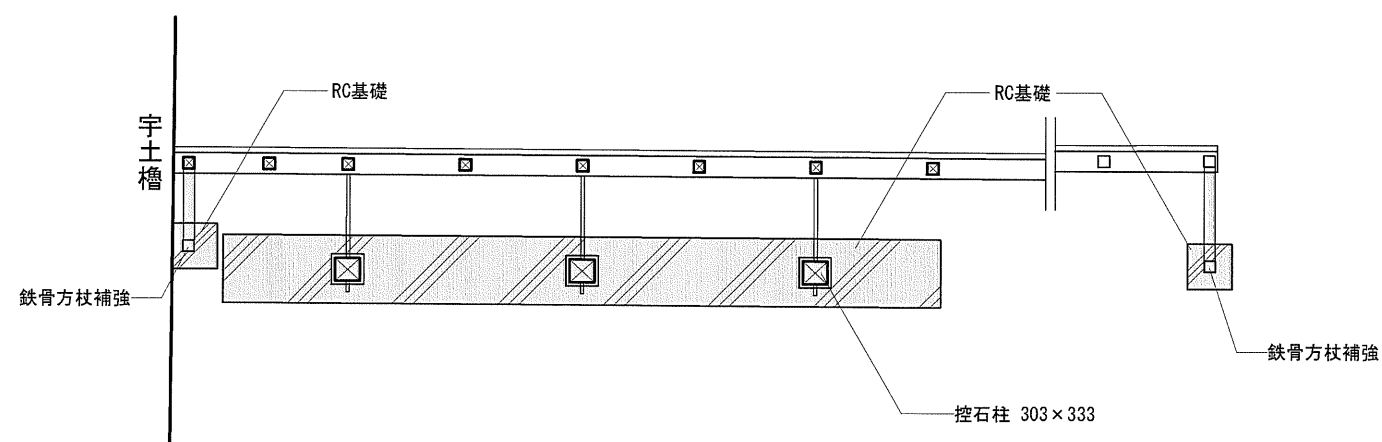
- 6 構造補強の概要
3 廊下塀の構造補強について
廊下塀の構造補強の概要



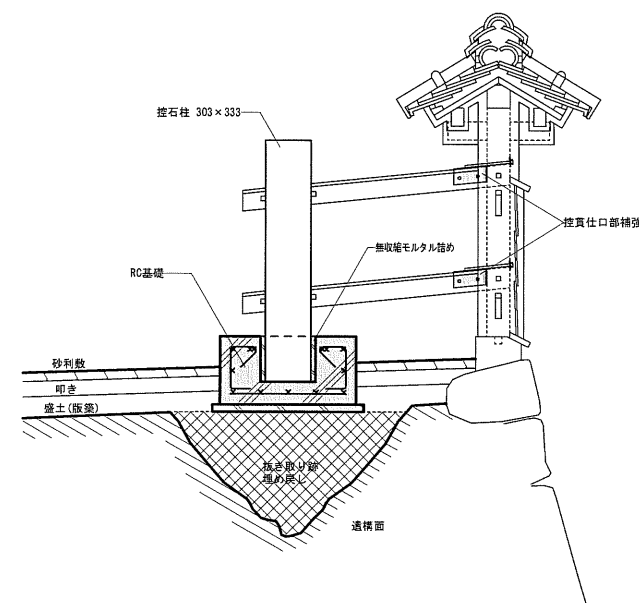
4 土塀（籠塀）の構造補強について



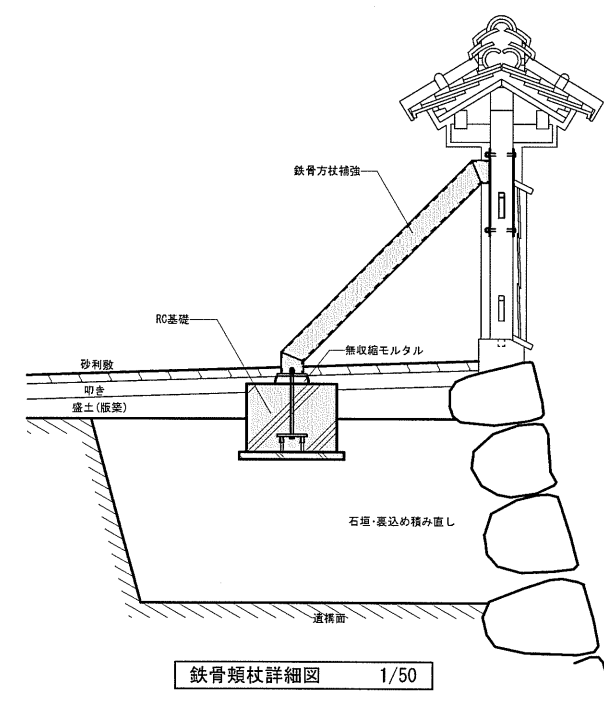
土塀（籠塀）補強平面図 1/200



鉄骨方杖・RC基礎平面図 1/100



RC基礎 詳細図 1/50



鉄骨方杖詳細図 1/50